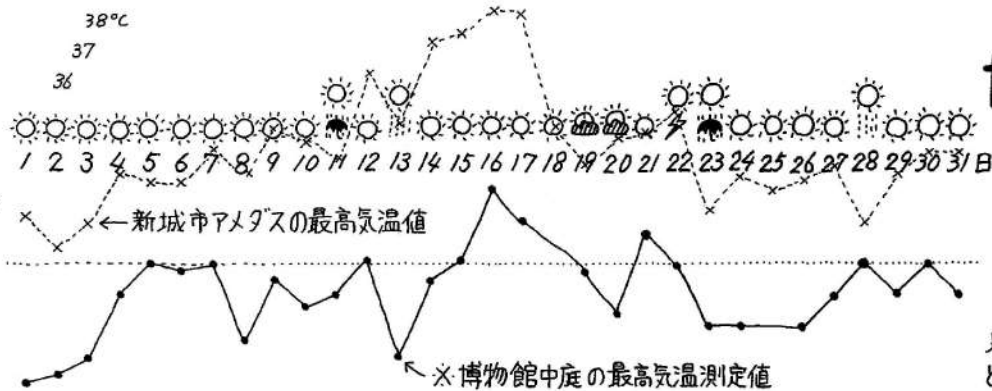


長雨のち猛暑

新城市・鳳来寺山付近の天気 8月

長い長い梅雨が8月1日に明けたとたん一転して晴天続きとなりました。雨が降ったのは、通り雨も含めてわずか5日でした。
あまりの乾燥に、鳳来寺山パークウェイのイロハモミジが紅葉するほどでした。

32°C
31
30
29
28
27
26



博物館ザッ記 No.15

成田務先生逝去(令和2年8月7日)

コケ植物が専門で、故高木典雄先生の後継者として、平成17年から学術委員を引き受けてくださいました。じみなコケに親しんでもらう為子ども自然講座でコケ玉を作ったり顕微鏡観察の指導をしていただきました。今ごろは高木先生といっしょにコケ採集に出かけているかもしれません

新型コロナウイルス第二波と博物館

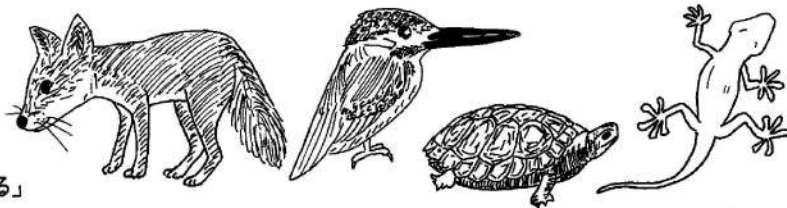


みんなで調べよう!あいちの生物多様性 (令和2年8月1・2日)

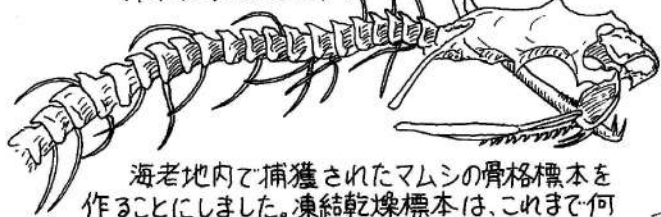
県民参加型生物多様性モニタリング調査に、博物館友の会も参加することになりました。この日新城設楽生態系ネットワーク協議会の事務局による説明会がありました。
ハンドブックに載っている動植物の指標種を、野外で観察したら地図情報システムに記録していく調査です。個人や友の会の観察会、博物館行事でも行なえます。この8月から令和3年2月末まで実施します。興味のある方は参加できます。



博物館主催のジオツアー 中止
① 9月6日(日) 「奥三河の岩脈をめぐる」
② 9月27日(日) 「中央構造線の露頭をめぐる」



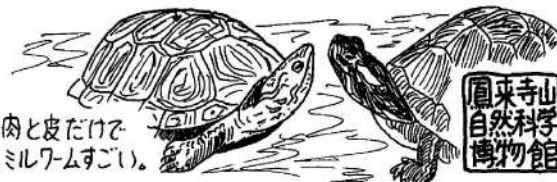
マムシの骨格標本作りに挑戦 (令和2年8月31日)



海老地内で捕獲されたマムシの骨格標本作ることにしました。凍結乾燥標本は、これまで何体か作りましたが、骨は未経験です。そこで、館で飼育しているミルワームの協力をお借りすることにしました。約3日で骨だけにしてくれました。しかし、肉と皮だけでなく細い骨も食べられてしまい、標本としては使えない状態。ミルワームすごい。

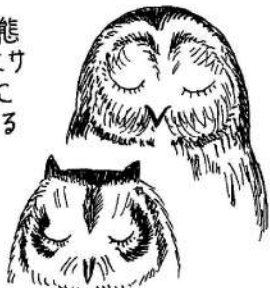
カメ元気 (令和2年8月30日)

ミシシッピアカミミガメとクサガメをバルコニーで飼育しています。お風呂のように熱くなった水槽で元気いっぱいです。アカミミガメが侵略的外来種に指定されているのうなずける気がします。



コミズク死亡 (令和2年7月17日)

4月15日にひん死の状態であったコミズクは、エサも自力で食べられるようになり、片足で立ちあがるようにもなりました。しかし数日前から容態が悪くなり、この日帰らぬ鳥となりました。



短命フクロウ (令和2年8月16日)

7月17日、豊橋市と田原市の境界付近でフクロウが保護され、博物館に飼養の要請がありました。外傷もなく、エサもすぐに食べてくれたので、自然復帰も早いと思っていました。とても残念です。